

18世紀初頭のコレット職人の 検認遺産目録

——カンタベリー大権裁判所検認記録を用いて——

岡 部 芳 彦

1 はじめに

18世紀半ばまでイギリスではボディス bodice と呼ばれたコレットへの関心は非常に高い。歴史上のファンデーション（体型補整下着）としてだけではなく、フェティッシュな身体造形のためのファッションアイテムとして現在でも使用されている。コレットについてはV・スティールの通史的研究をはじめ、主に服装史の観点から様々な研究がこれまでも行われてきた。⁽¹⁾それらは、道具・製品としてのコレット自体やそれを使用した女性についての社会史や文化史、あるいはジェンダー論から語られることが多い。

その着装方法や女性の身体に与えた影響について研究がすすむ一方で、コレットを製造し販売した人々について書かれたものは管見の限り多くはない。理由としては、それを製造した人々がいかなる製品を、どのような道具や方法で製造していたのか具体的に見ることができる史料が少ないことが考えられる。

イングランド・ウェールズで最高位の教会裁判所であるカンタベリー大権裁判所（Prerogative Court of Canterbury, 以下 PCC）検認記録に残る遺産目録

*本研究は JSPS 科学研究費（研究課題番号：15K03595）の助成を受けたものである。

(1) Steele, V. (2003), *The Corset: A Cultural History*, Yale University Press. 古賀玲子『コレットの文化史』青弓社, 2004年など。

18世紀初頭のコレット職人の検認遺産目録

には、イギリスの各地域の検認遺産目録では見られないような稀少な職業が含まれている。また、カンタベリー教会管区内の複数の教区に財産を持つ富裕層が、それぞれが属する教区ではなく、PCCで遺言書や遺産目録の検認を受けた。そのため、総額が大きく、遺産として多くの家財が査定され、様々な職業の日常や消費生活を見るのに有用な史料である。

イギリス国立公文書館 (The National Archives, 以下 TNA) に所蔵されている PCC 検認記録を調査した結果、コレット職人の20例の遺言書が残る一方で、検認遺産目録はブリストルの1721年に検認・公開された Thomas Baylis の1例のみが見つかった。表1はブリストル市公文書館 (Bristol Record Office, 以下 BRO) 所蔵の7169例の検認遺産目録の中で見つかったコレット職人である。Francis Bell (SS. Philip & Jacob 教区, 1679年, 総額25ポンド), John Chock (St. Thomas 教区, 1668年, 345ポンド), Anthony Runniger (Christ Church 教区, 1642年, 5ポンド) の3例のみであり、そのすべてが17世紀のものである。この内、最も高額な John Chock の事例は、E & S・ジョージが編纂したブリストル市街教区の遺産目録集の中で活字化されている⁽²⁾。しかし、その内容は非常に短く家財が査定されたあとに、債務者リストが付いているほかは、店舗 shop の項目に「布、骨格、撚糸、皮革で作られた完成・未完成のコレット」とのみ記載され、その実態を知ることはできない。

そこで、本稿では、コレット職人 Thomas Baylis の検認遺産目録の手稿原本を活字化した後に、店舗や在庫を中心にケーススタディを行う。それにより、コレット職人がどのような店を構え、いかなる素材で製品を製造したのか、その実態を検討したい。

なお、手稿からの活字化に際しては国内外での利用を考慮し原語のままとし、綴り違い、改行、注記などをできるかぎり原史料に近い形で記載し巻末に収録した。また、Thomas の遺言書も残されているが、本稿ではコレット職人の⁽³⁾

(2) George, E. and S. with the assistance of Fleming, P. (2005), *Bristol Probate Inventories Part III: 1690-1804*, Bristol Record Society's Publication Vol. 57, pp. 38-39.

遺産目録に残された品目から実態を分析することが主たる目的のため今回は取り上げない。

表1 BRO 検認記録におけるコルセット職人の遺産目録

年	氏名	教区	総額 (£)
1642	Anthony Runniger	Christ Church	5
1668	John Chock	St. Thomas	345
1679	Francis Bell	SS. Philip & Jacob	25

出典：George, E. and S. (1988), *Guide to the Probate Inventories of the Bristol Deanery of the Diocese of Bristol (1542-1804)*, Bristol Record Society.

2 ケーススタディ

(1) コルセット職人 Thomas Baylis の検認遺産目録

表1の名前から判断するかぎり、検認遺産目録を残したコルセット職人はすべて男性である。コルセットを女性のオーダーメイド下着と考えれば、その製作者がすべて男性というのは一見不自然にも感じる。ただ、スティールの研究にもあるとおり、フランスでは18世紀までギルドは女性の入会を認めていなかった⁽⁴⁾。イギリスでも似たような状況は続き、18世紀に入っても、男女両方がその製作に携わっていたにもかかわらず、原則的に男性職人によって製造された。その製品は可能な限り注文者の女性の体に合うように作られたが、その形状が優先され正確なサイズで製造されなかったこともあった⁽⁵⁾。イギリスのコルセット職人は、bodice maker の他に、stay maker と呼ばれることもあった。

巻末 [1] は Thomas Baylis の検認遺産目録の手稿原本を活字化したものである⁽⁶⁾。これは、1721年7月26日にブリストル市街教区で検認・公開されている。まず、総額であるが £1632 11s 8d となっているが、筆者が計算したところ ♪

(3) PROB 11/1706/213, TNA.

(4) Steele, *The Corset: A Cultural History*, p. 16.

(5) Steele, *The Corset: A Cultural History*, p. 18.

(6) PROB 3/20/169, TNA.

18世紀初頭のコレット職人の検認遺産目録

1583 11s 0d であり、若干のずれが生じている。遺産目録が長大となった場合、計算間違いがあることは、稀に見受けられる。査定人は室内装飾業者 upholsterer の James Baker と指物師 Joyner の Richard Sullock であった。検認遺産目録の査定には同業者が呼ばれることが多⁽⁷⁾かった。家屋に関する業者2名が査定した理由は分からないが、同業者が少なかった可能性もあるものの、これらの業種がコレット職人と関係深かったとも考えられる。

つづいて、家屋を見てみよう。14部屋以上と店舗が査定されている。また、In the Forestreet Room three Story (階) との記載から3階建てであったことが分かる。このことから、かなり大きな家屋敷であったことが分かるとともに、コレット職人が富裕な商工業者であったことが窺える。表2は、部屋を記載順に並べたものである。ここからは品目の査定は、ほぼ上層階から下層階、地下室に向かって行われたようである。ただ、2階を査定後に3階の通りに面し

表2 Thomas Baylis の家屋内の部屋

1. Back Garrett
2. Rooms two Story backward
3. Parlour
4. Work Garrett
5. Forestreet Room three Story
6. Room Backward,
7. Forestreet room two Story
8. Passage
9. Back room Two Story
10. Forestreet Rooms One Story
11. Forestreet room One Story
12. Shop
13. Back room one Story
14. Back Sellar
15. Fore Sellar

出典：PROB 3/20/169, TNA.

(7) 岡部芳彦『イギリス検認遺産目録研究』晃洋書房、2015年、18頁。

(8) 一階の「Forestreet Rooms」が複数形のため。

た部屋 Forestreet Room three Story が記載されるなど、必ずしも順序だって査定が行われたわけではないことが分かる。6 部屋にベッドやベッドの枠組み bedsted にくわえて寝具類の記載があり、またテーブルや椅子が備えられている。それらの部屋にはベッドや寝具以外は、暖炉の火かき棒の一種であった fire dog や書棚 scriptor など日用品しか記載されていない。これらの事からこの家屋には家族以外に職人や使用人が居住していた様子が窺える。

検認遺産目録では店舗 shop にあった商品在庫は、それが商品である性格上、日常生活用品に比べて価格や品目が正確に査定、あるいはできた可能性が高い⁽⁹⁾。しかし、この遺産目録の店舗の項目には、織物の経糸を巻く緒巻き beam、定規 smale、真鍮製秤 brass weights、什器といった備品しか査定されていなかった。一方、在庫 The Stock and goods of the Deced in his Trade が部屋名と並列に別に記載されている。これについては、次節で検討したい。

(2) 在庫

この遺産目録には、故人の商売における在庫ならびに品目 The Stock and goods of the Deced in his Trade の項目がある。遺産目録では、在庫は店舗に記載されることが多く、別項を設けるのは珍しい形式である。29品目に及び詳細な在庫表である。これを記載順に見ることによって、コルセット職人の実態を分析したい。

まず、コルセット関連品を記載順に見てみよう。在庫の項目には28品目が査定されている。まず、高級コルセットの完成品だけで118個在庫している。その次に普及版の完成品が705個あった。くわえて、220枚のスタマッカー stomacher も在庫されている。これは16世紀ごろから男女ともに用いられた装飾胸飾りから派生しコルセットの紐絞め部分を覆う装飾的な胴当てであり、その形状は細長い三角形で、美しい刺繍などの装飾が施されていた。⁽¹⁰⁾ そのほかに、

(9) 岡部『イギリス検認遺産目録研究』20頁。

(10) 古賀『コルセットの文化史』25頁。

292の未完成の骨を使用した通常のボディス、553の刺繍が施された普及版の未完成ボディス、18の未完成の刺繍が施された未完成スタマッカーが記載されている。完成、未成品併せて総数が1000を超えるコレット、ボディスがBaylisの家屋敷の中に在庫されていたようである。これほど多くのコレット関連品が記載されていることの解釈は難しい。半完成品を製作しておき、注文が入った際に、それを基に注文者の体に合わせるパターンオーダーやイージーオーダーのような製作手法が行われていたとも考えられるが、この遺産目録からはこれ以上のことは分からない。

コレットの素材について見てみよう。各種の皮革が記載されたのちに、装飾組みひもやリボンの一種であるガルーン gallon が記載されている。また、コレットを支える張り骨であるバスク busk 用のガルーンや、縁取り用のテープである inkle、各種の糸、染色されたリネン布、低品位の生糸である ardass が記載されている。

コレットの主要な生地素材としては、まずキャムレット織が用いられたようである。これは、アンゴラヤギのウールなどの羊毛と絹を組み合わせた織物であり、タペストリーや室内装飾、そして女性の衣服に使用された。つづいて記載された tick は主にマットレスに使用される固めのリネン布である。

210個（17ダースと6）の皮革製ボディスの記載がある。数の多さや製品の主素材になったと思われる布の後に記載されていることから、コレットの土台となる型であったと考えられる。各部材を留めたピンも査定されている。

つづいて、39エルのムンスター・ダウラス織 Munster Dawlas が査定されている。エル ell は、イギリスの古い測定単位であり、肘 elbow に由来し中指の先端から肘までの長さ⁽¹¹⁾に近く、または45インチ（約114cm程度）であった。ダウラス織 dowlas とは、低品位のリネンやキャラコ織物の呼称である⁽¹²⁾。他に

(11) Chapman, R. C. (1995), *How Heavy, How Much, and How Long?: Weights, Money and Other Measures used by our Ancestors*, Lonchin publishing, p. 22.

(12) Moore, J. S. (1976), *The Goods and chattels of our forefathers: Frampton Cotterell*

損傷したダウラス織の記載もある。これらもコルセットの部材であったと思われる。

3 ま と め

本稿では、カンタベリー大権裁判所検認記録で1例だけ残っているコルセット職人の検認遺産目録に注目して、ケーススタディを行った。最後にもう一度分析結果を整理し、まとめとしたい。

1721年に検認・公開された Thomas Baylis の遺産目録からは、店舗兼住居が、大きな家屋敷であったことが分かった。そこには、家族以外の職人や使用人が居住していた可能性が高く、コルセット職人が大規模に事業を展開した富裕な商工業者であったことが窺える。

在庫の項目は29品目に及び詳細に査定されていた。高級コルセット、普及品、スタマッカーなどが記載され、完成、未完成品のコルセットの総数は1000を超えていた。このことから、現在のパターンオーダーやイージーオーダーのような製作手法が行われていたとも考えられる。

素材に関しては、装飾組みひもやリボンの一種であるガルーン、コルセットを支える張り骨であるバスク用のガルーン、カムレット織、ダウラス織などが査定されており、装飾が施された華美な製品であった様子が窺える。

今後の課題であるが、この検認遺産目録からは、コルセットが様々な素材で大量生産された可能性が分かったが、具体的な製造工程まで見ることはできなかった。それを解明するために、他のコルセット職人の検認遺産目録の史料収集に努めるとともに、当時作成された図版画なども参考にいかにして製造されたかについて分析をすすめたい。

and district probate inventories, 1539-1804, Phillimore, p. 303. ダウラス織については、竹田泉『麻と綿が紡ぐイギリス産業革命』（ミネルヴァ書房、2013年）の第三章「アイルランドにおけるドイツ製リネンの模倣の事例」が詳しい。

巻末 [1] Thomas Baylis (職業 : bodice maker, 教区 : City of Bristoll, 1720年) の検認遺産目録

A true and perfect

Inventory of all and Singular the goods Chattels rights and Credits of Thomas Baylis late of the City of Bristoll Bodicemaker deced^① taken and appraised this twelfth day of December in the Year of our Lord God One thousand Seven hundred and twenty by us James Baker Upholster^② and Richard Sullock Joyner both of the City of Bristoll as Followeth Viz¹

mp^{rs③} - The decedts^④ Wearing Apparell v^{li}

In the Back Garrett

One Old Table		j ^s	vj ^d
---------------	--	----------------	-----------------

In the Rooms two Story backward

One Table board One Stool and one trunck	}	iii ^j s	
One Old Rugg		ii ^j s	

In the Parlour

One Large Ovall Table		xij ^s	
Twelve Leather Chaires at two Shillings and Eight pence each	}	1 ^{li}	xij ^s
One Stove Grate and Iron Fender		xvij ^s	vj ^d
Two Window Curtaines and Rodds		ix ^s	

In the Work Garrett

Two Working boards three Stooles	}		
----------------------------------	---	--	--

one Old Chest and one Cofferr } viij^s vj^d

In the Forestreet Room three Story

One Old Bedsted and Furniture j^{li} v^s
 One Feather bed boulster and pillow ij^{li} x^s
 One Rugg and two blanketts v^s vj^d
 One Square Table iij^s vj^d
 One Old Chest of Draws iij^s
 Two old Curtains and Rodds j^s
 Three old Chayers and one Stool j^s viij^d
 One Small Looking Glasse ij^s vj^d

In the Room Backward

One old Bedsted and part of one viij^s
 One Feather Bed and two Flock boulders j^{li} xij^s
 One Chayer Table j^s vj^d

In the Forestreet room two Story

One Bedsted and Furniture j^{li} v^s
 One Flock bed boulster one }
 feather boulster and pillow j^{li} viij^s vj^d
 Two old green Ruggs and two }
 blanketts x^s viij^d
 One Square Table & Skreen Glass ix^s
 Two Old Window Curtains & Rodds iij^s
 Four old Chayers & One picture iij^s
 One Large Chest vj^s
 One Iron Grate and Fender v^s vj^d

In the Passage

One Old Bedsted and Rodds vj^s

In the Back room

Two Story

One Bedsted and old Curtains viij^s vj^s
 One Feather bed & Flock boulster j^{li} x^s

18世紀初頭のコレセット職人の検認遺産目録

One Green Rugg & one blankett		x ^s	
One Truckle Bedsted		ij ^s	vj ^d
Two old Chayers		j ^s	vj ^d
One Dressing Table		iiij ^s	vj ^d
One Flock bed and boulster		viiij ^s	vj ^d
One Settle and Joynt Stoole		ij ^s	vj ^d
One Green Rugg and Looking Glasse	}	iiij ^s	vj ^d

In the Forestreet

Rooms One Story

One bedsted and Furniture		xix ^s	
One Feather bed boulster and two pillows	}	iiij ^{li}	xj ^s
two Flock boulsters and three pillows	}	ij ^s	vj ^d
One blew Rugg		x ^s	
Two Window Curtains & Rodds		ij ^s	
Three Leather Chaires three Joynt Stooles & three small Stools	}	ix ^s	
One old Chest of Draws		x ^s	
Two old Chests		xi ^s	
One Iron Grate Slice Tongues and one pair of Doggs	}	v ^s	
One Ovall Table & Carpett		x ^s	

In the Forestreet room

One Story

Sixteen pair of Sheets at Six Shillings per pair	}	iiij ^{li}	x ^s	vj
One Diaper Table Cloth twelve napkins	}		xiiij ^s	
Five Huckaback Table Cloths			ix ^s	
Ten plaine Table Cloths and tenn napkins	}		xv ^s	
Fiveteen Huckaback Napkins			vij ^s	vj ^d

Tenn boulster Cases		xij ^s	
Twenty Eight [^] large pillow Cases	j ^{li}	xij ^s	
thirty Small Ditto		vj ^s	
two hundred and Fifeteen pound of pewter at Six pence halfe penny p ⁵ pound	}	v ^{li}	xvj ^s v ^d ob
thirty Seven pound of Brass at Eleven pence per pound	}	j ^{li}	xij ^s xj ^d
Thirty Five pound of Bellmettle at Six pence per pound	}		xvij ^s vj ^d
Two old Skilletts 2 Ladles and one Skimmer	}		ij ^s vj ^d
two brass rings two pestells and mortars & one Skillett one Ladle & nine Candlesticks	}		xvj ^s iij ^d
One Warming pann		v ^s	
One Toaster			vj ^d
Iron Gare in the Chimney weighing two hundred pounds at two pence Farthing p pound	}	j ^{li}	xvij ^s vj ^d
three pair of Scales		v ^s	iij ^d
One Square Tabell and one Ovall	}	v ^s	
two Joynt Stooles		j ^s	vj ^d
Fower Wooden Chayers		ij ^s	
One Skreen and Cloth		iij ^s	
One Looking Glasse		ij ^s	
A parcell of Earthen Ware		vj ^s	

In the Shopp

One Beam and Scales		ij ^s	vj ^d
One Small Beam		j ^s	vj ^d
Eleven pound of brass weights		v ^s	vj ^d
Fourty nine pound of Lead weights	}	ij ^s	vj ^d
Four Shopp Chests and the Shelv's	\		

18世紀初頭のコレット職人の検認遺産目録

about the Shopp } jⁱ

**In the Back room
one Story**

One Scrutore one Table and
two Chests }

xij^s vj^d

In the Back Sellar

Two barrells

vj^s

Five Kilderkins

xij^s

three Tubbs and one Tunn
dish }

vj^s

Five Bear Horses one Paile
one Washing board and one
Cock }

xij^s

In the Fore Sellar

One Meshing Tubb and Eleven
small Tubbs & two beare horses }

xij^s

Two Ironing boxes & Clamps

iiij^s

Some old Knives and Forks

j^s iij^d

Some odd things omitted with
Lumber about the house }

x^s

lvjⁱⁱ vj^s

Arrears of rent due at the

Deceds death

xxixⁱⁱ ix^s

Debts supposed to be good

CCLxxxvjⁱⁱ vij^s ij^d

Debts supposed to be badd

Cxxxvjⁱⁱ xvij^s vij^d

**The Stock and goods of
the Deced in his Trade**

One hundred and Eighteen pair }

of bodices of the best sort Finished	}	xli ^{li}	vij ^s	vj ^d
Seven hundred & Five pair of Ordinary bodices Finished	}	Cxxiiij ^{li}	x ^s	
Two hundred & twelve pair of Stomachers Finished	}	xij ^{li}	xj ^s	viiij ^d
Two hundred Ninety two pair of Ordinary boned bodices unfinished	}	j ^{li}	xviiij ^s	
Five hundred Ninety three pair of Ordinary Sticht boned bodices unfinished	}	xli ^{li}	xvij ^s	x ^d
Eighteen Stomachers ordinary Sticht unfinished	}		viiij ^s	viiij ^d
Whalebone unwrought		Clxxx ^{li}	xix ^s	iiij ^d
Ticks unwrought		xxxj ^{li}	v ^s	
Seventeen Dozen & Four Skins of Large Leather at Twelve Shillings	}	x ^{li}	viiij ^s	
Four Dozn [®] & 2 Single Damaged Skins at 8 ^d		j ^{li}	xiiij ^s	iiij ^d
Four peices of pound Galloom		j ^{li}	vj ^s	
Six peices and a halfe of Bray [®]		j ^{li}	vj ^s	
Two peices of Busk galloom			v ^s	
Eight Doz ⁿ & a halfe of Narrow Incle	}	j ^{li}	vj ^s	
Seven Doz ⁿ and a halfe of thread	}	ix ^{li}		
Fourteen peices of Dyed Linnin containing Seven Yards each at Five pence per Yard	}	ij ^{li}		
Nine pounds of Light Ardasse Silke at Fourteen Shillings	}	vj ^{li}	vj ^s	
Two pound of black Belladin Snapps of Silke		j ^{li}	viiij ^s	x ^s
Two hundred Sixty Four Yards of Camblett and hairateen	}	xiiij ^{li}	iiij ^s	
Three hundred Fifty Five	}			

18世紀初頭のコレセット職人の検認遺産目録

remnants of Tick	}	vij ^{li}	xvij ^s	vj ^d
Seventeen Dozn & Six Leather	}	xiiij ^{li}	vj ^s	iiij ^d
bodices				
	½			
A parcell of Pinns		ij ^{li}		
Thirty nine Ells of Munster	}	j ^{li}	j ^s	j ^d
Dowlas				
	½			
Nineteen Ells of Hamblets			vj ^s	iiij ^d
Nine Yards of Yard wide Linnen			iiij ^s	
Eight odd peeces of Damaged	}		xij ^s	
Dowlas				
Two Dozn and a halfe of Ordinary	}		iiij ^s	ix ^d
Leather				
Cash in the house		Dlxiiij ^{li}	x ^s	
		<hr/>		
		MDCxxxij ^{li}	xj ^s	viiij ^d

Hill

Extum fuit huiusmodi Invenium 26^o die
Mensis Julij Anno Dni 1721 p Magrum
Georgium Hill Not Pub Pronu pro
Execut &c pro vero pleno et pfecto Inve
&c Sub Protestacoe lamen de addenda &c
Six __ ./.

-
- ① deceased
 - ② Upholsterer
 - ③ Imprimis
 - ④ decendants
 - ⑤ per
 - ⑥ Dozen
 - ⑦ braid

Probate Inventory of Bodice Makers in the Eighteenth Century: Using Prerogative Court of Canterbury Probate Record

Yoshihiko Okabe

Interest in the corset, which was called a 'bodice' in the UK until the mid-eighteenth century, has been very high not only because it is a historical foundation garment (integrated compensation underwear) but as something still in use today as a fashion item for fetish body modelling. Including the study of Valerie Steele on corsets, research is conducted mainly from the point of view of costume history. Studies include the social and cultural history of women who use the corset itself as a tool and a product; they are often told from the point of view of gender theory.

While the effect given to the bodies of women by corsets is often studied, there are few studies about the people who sell and produce corsets. The reason is that there are not many historical documents about those who manufactured them.

From the probate inventory of Thomas Baylis, appraised in 1721, we know that he owned a mansion. Many craftsmen and employees lived there, and this suggests that the bodice maker was a wealthy merchant who did business on a large scale.

Inventory that has been assessed in detail consists of 29 items. Luxury corsets, popular products, 'stomachers' and so on, suggest that the total number of finished and unfinished corsets and other goods were more than 1000. This fact suggests there was also a production system including easy, pattern orders.

For the bodice material, a kind of decorative braid and ribbon-Garoom, which was herringbone support for the corset, and woven camlet, such as Doulas were used; such materials suggest that corsets and bodices were decorative products.

Note: This work was supported by JSPS KAKENHI Grant Number 15K03595.